

技 術 名 : エポコラムTaf工法

(地中障害物混在地盤対応地盤改良工法)

NETIS番号: QS-180012-VE

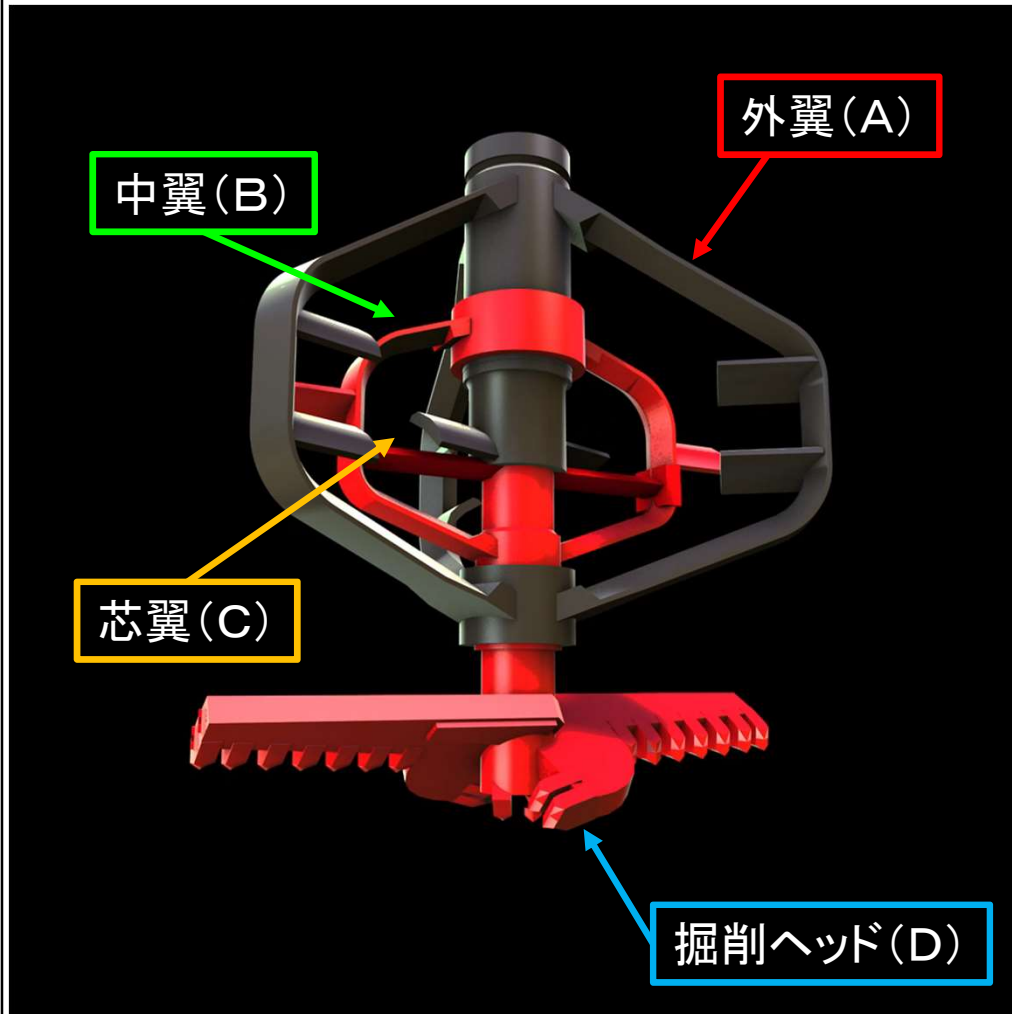
会社名 エポコラム協会

住所 福岡県福岡市博多区

博多駅東2-5-1アーバンネット博多ビル7階

電話 092-412-0263

工法の概要1



エポコラムの攪拌翼は、**外翼(A)**と**芯翼(C)**とが同一方向に回転し、**中翼(B)**と**削孔ヘッド(D)**はそれぞれとは異なる方向に回転(逆回転)する複合相対攪拌を行うことにより、「共回り」「連れ回り」現象を防止し、混合作用に加え「練り込み」作用を併持した三次元的攪拌を行い、良好な品質のコラムを築造します。

技術名: エポコラムTaf工法(地中障害物混在地盤対応地盤改良工法)

工法の概要2

名称	地盤環境対応	攪拌翼径
エポコラム Taf(タフ)工法	地中残存物処理	φ 1.5m ~ φ 2.5m
	超硬質地盤(砂 $N = 50$) (粘土 $N = 12$)	φ 1.5m ~ φ 1.6m

エポコラムTaf工法1

従来の二工程を必要とする施工を、同一工程で施工が可能になったことにより、施工効率が向上し、**工期短縮と施工費の縮減**がはかれます。

施工手順概要図

①既製杭頭出しによる位置確認

③攪拌混合施工

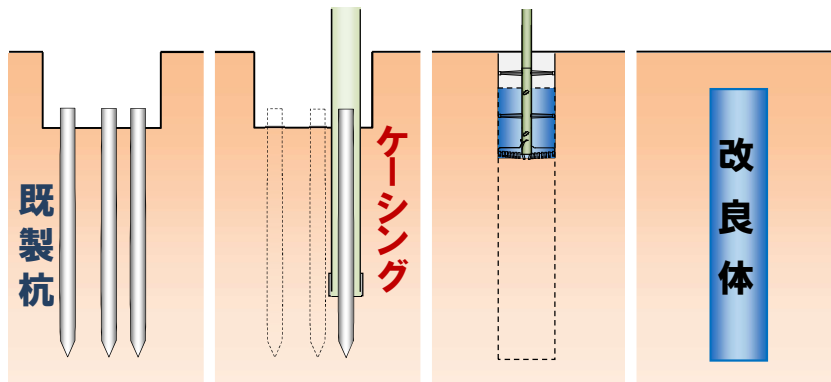
①既製杭

③改良体造成完了

②既製杭除去工

④改良体造成完了

②杭破碎と複合
相対攪拌施工



既製杭残置地盤における
従来技術施工手順



既製杭残置地盤における
エポコラムTaf工法施工手順

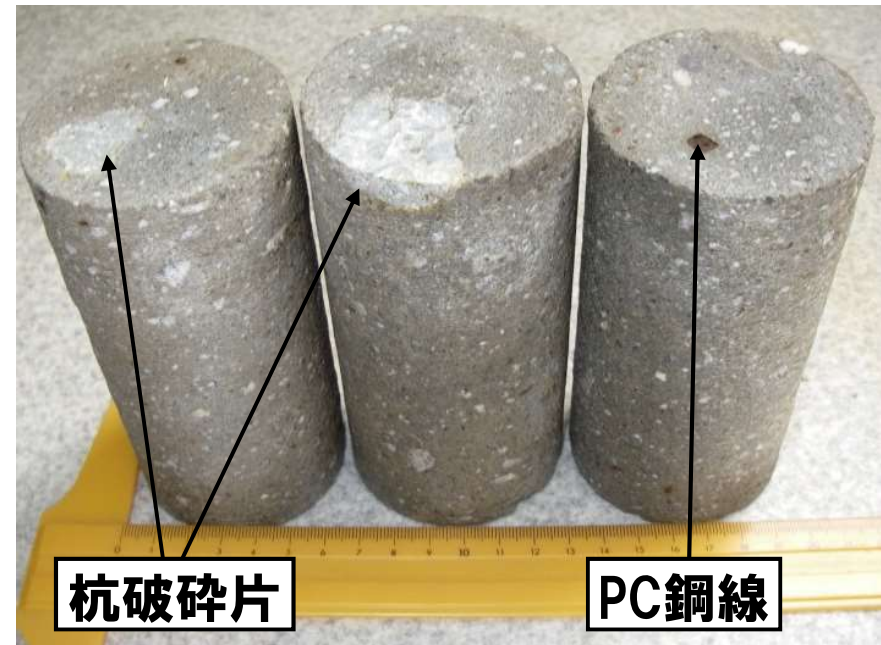
技術名：エポコラムTaf工法（地中障害物混在地盤対応地盤改良工法）

エポコラムTaf工法2

破断・破砕後の地中残存物はコラム内に分散し一体化することにより、**廃棄物の発生を抑制**することが可能です。


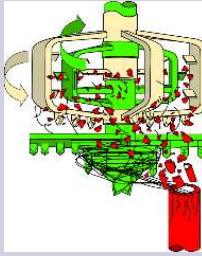

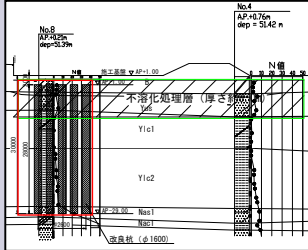





既製杭破砕出来形状況

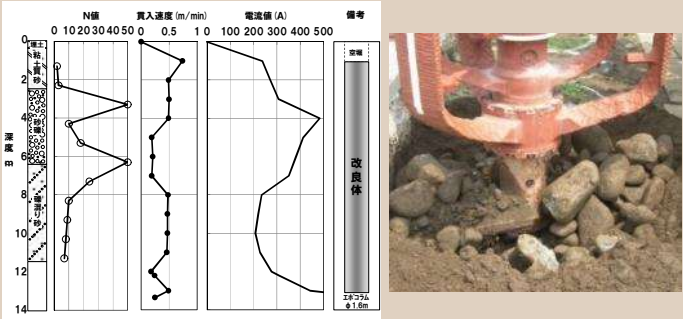


コア供試体作成状況(杭破砕片混入)

技術名：エポコラムTaf工法（地中障害物混在地盤対応地盤改良工法）

地盤構成	地盤種類	地中障害物性状等	改良径	事例	実績件数	
改良・ 改変地盤 地中 残存物	1	PC杭 RC杭 打設地盤	杭径 ϕ 350～ 450mm	ϕ 1.6m ～ 2.3m	 	39件
	2	ドレーン材 配置地盤	PD引張強度 2.5kN/製品幅	ϕ 1.6m ～ 2.3m		6件
	3	既地盤改良 地盤	経年：数ヶ月～ 20数年 q _{max} = 5,800kN/m ²	ϕ 1.6m ～ 2.0m	 	10件
	4	残置 コンクリート 塊 混在地盤	ガラ径 50～300mm コンクリート ガラ等	ϕ 1.6m ～ 2.0m	 	30件 以上

技術名: エポコラムTaf工法(地中障害物混在地盤対応地盤改良工法)

地盤構成	地盤種類	地中障害物性状等	改良径	事例	実績件数
自然 地盤 超 硬質 地盤	5	巨礫混入地盤 粒径 φ150~ 300mm	φ1.6m ~ 2.3m		50件 以上
	6	土丹地盤 N=20~40 固結シルト	φ1.6m		1件
	7	高N値地盤 N=10~50 砂礫層	φ1.6m ~ 2.3m		100件 以上